

九州大学総合研究 博物館ニュース

October 2007 No.9

全国大学博物館等協議会2007年大会九州大学で開催

多田内修



平成19年6月7、8の両日、九州大学が主管校となった第10回全国大学博物館等協議会・第2回博物科学会が、箱崎キャンパスの五十周年記念講堂及び21世紀交流プラザを会場として開催された。参加者は、北は北海道大学総合博物館から、南は琉球大学資料館まで全国の大学博物館、同設置準備委員会、国立博物館のほか、博物館関係の業者を含めた31団体の教員、学芸員、事務職員など74名であった。

6月7日は、多田内修大会実行委員長、梶山千里九州大学総長の歓迎の挨拶のあと、馬渡駿輔協議会会長が大学博物館等協議会の役割について基調講演を行い、久保庭信一日本博物館協会専務理事の挨拶では博物館協会への大学博物館の参加が呼びかけられた。国立科学博物館標本資料センター松浦啓一コレクションディレクターによる特別講演「GBIFと日本の自然史系博物館：標本資料データベースから何が展望できるか」に続いて、第1日目の博物科学会一般講演が行われ、情報、教育・マネジメントに関する8題が発表された。

6月8日は、前日に続いて教育・マネジメント、地域・社会貢献、学術に関する12題の研究発表が行われ、質疑・応答が繰り広げられた。一般講演終了後、館長会議、実務者会議、協議会総会が行われた。館長会議では、平成18年度決算案及び19年度予算案を承認し、次期役員案及び平成20年度大会主管校案を決め、総会に諮ることとした後、博物館法改正問題等博物館をめぐる最近の動きについて議論した。実務者会

議では、平成18年度合同企画展の総括と今後の企画（橋本博文新潟大学旭町学術資料展示館、岩永省三九州大学総合研究博物館、薩摩雅登東京芸術大学美術館）、大学博物館でのボランティア制度の導入（大木公彦鹿児島大学総合研究博物館）、博物館教育への組織的取り組み（湯浅万紀子北海道大学総合博物館）、博物科学会規則案（松枝大治北海道大学総合博物館）等を議論した。総会では（1）平成18年度決算及び19年度予算を承認した後、（2）次期役員として、会長校—東北大学総合学術博物館（永廣昌之館長）、副会長校—九州大学総合研究博物館（多田内修館長）、監査校—東京大学総合研究博物館（林良博館長）を決め、（3）平成20年度大学博物館等協議会及び第3回博物科学会を大阪大学が主管校となって来年6月開催すること、（4）平成18年度の合同企画展の成功を受けて、今後も東京芸術大学美術館を核として共同企画を計画すること、などを決めて散会した。

協議会期間中には、大学博物館の骨格標本室（旧工学部知能機械工場2階）および工学部列品室（工学部本館3階）が参加者に解放され、博物館職員が展示室のみならず標本収蔵室まで案内し、説明した。見学者は、収蔵標本はもとより、収蔵方法、収蔵展示の問題点などを質問しながら見て回った。

（大学博物館等協議会2007年大会実行委員長・九州大学総合研究博物館館長）



参加者による各博物館の紹介

